2026年2月15日 実施

2025年度　板橋区手話講習会進級試験　　**通訳養成コース**

（筆記試験問題）

1. 次の文章で正しいものには○、間違っているものには×を解答用紙に記入してください。

① 通訳技術の７ポイントの１つ「主語の明確化」では上体移動、指差し、視線や表情の変化で主語を明確にすることができる。

② 東京の情報提供施設である聴覚障害者情報文化センターでは、コミュニケーション支援、情報支援、相談支援等を行っている。

③ 東京聴覚障害者自立支援センター内ではRONAスクールという就労移行支援事業が行われている。

④ 要約筆記は話の内容を要約し、文字によって伝える情報保障手段である。1983年に結成された全国要約筆記問題研究会が中心となって活動を行っている。

⑤ 手話通訳の現場は日常生活場面以外にも講演会や企業内会議など多岐に渡るが、裁判や政見放送の通訳は手話通訳士の資格所持者に限られている。

⑥ 手話の習得・使用、手話文化の保存・継承・発展、国民の理解促進のための施策を国や地方公共団体の責務として定めた手話言語施策推進法が2025年6月に施行された。

⑦ 「盲ろう者友の会」では交流会やコミュニケーション学習など多彩な取り組みを行っている。2025年7月、国連は6月27日を「国際盲ろうの日」と宣言した。

⑧ 伊藤論文の中で、手話通訳者とは「社会の自立」言い換えると社会的行動のための協力者であり、援助者であることが望ましい、と述べている。

⑨ 通訳の翻訳技術トレーニングとして、主題を明確に把握する力、内容の再構成の力を高めるデカラージシャドーイングという方法がある。

⑩ 普通自動車を運転するときには聴覚障害者標識を表示することが必須条件だが、原動機付自動車や普通自動二輪車の場合は表示が不要である。

2. 次の文章を読み、（　　）に当てはまる語を、下記の語群の中から選び解答用紙に記入してください。

1) 全日本ろうあ連盟は昭和（①）年５月に（②）温泉に集結して設立された。翌年には第1回ろうあ者大会が（③）で開催された。

2) 2024年障害者法定雇用率が民間企業が（④）%、国・地方公共団体が（⑤）%、都道府県の教育機関が2.7%となりました。

3) 手話通訳の歴史では1970年に（⑥）事業が、73年には（⑦）事業が、76年には（⑧）が開始された。

4) 参政権保障では全日本ろうあ連盟を中心とした運動の結果、1995年7月の参議院（⑨）選挙の政見放送から公的に手話通訳がつけられるようになった。

5) ろうあ運動の４本柱とは「運転免許の取得」「民法（⑩）条撤廃」「手話通訳の制度化」「聴言センターの設立」である。

ア. 手話通訳設置	カ. 11	サ. .3.0	タ. 3.2
イ. 日常生活用具	キ. 22	シ. 大阪府	チ. 手話奉仕員養成
ウ. 草津	ク. 25	ス. 京都府	ツ. 手話通訳派遣
エ. 伊香保	ケ. 2.5	セ. 比例代表	テ. 地域生活支援事業
オ. 別府	コ. 2.8	ソ. 小選挙区	ト. 手話奉仕員派遣事業

3. 団体の代表者名を記入してください。

① 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構　東京都聴覚障害者連盟

② 一般財団法人　全日本ろうあ連盟

③ 板橋区登録手話通訳者会

④ 一般社団法人　板橋区聴覚障害者協会

⑤ 板橋盲ろう者の会

4. 手話通訳におけるメッセージの伝達について空欄を埋めてください。



2026年2月15日 実施

2025年度　板橋区手話講習会進級試験　　**通訳養成コース**

（筆記試験　解答用紙）

（昼・夜）　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1. 【問1】

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

2. 【問2】

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

3. 【問3】

①	
②	
③	
④	
⑤	

4. 【問4】

①	②	③

2026年2月15日 実施

2025年度　板橋区手話講習会進級試験　　**通訳養成コース**

（筆記試験　答案用紙）

（昼・夜）　氏　名

1. **【問1】** 4点×10問=40点

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
○	×	○	○	○	×	○	×	×	○

2. **【問2】** 4点×10問=40点

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
キ	エ	ス	ケ	コ	チ	ア	ト	セ	カ

3. **【問3】** 3点×5問=15点

①	粟野　達人
②	石橋　大吾
③	福田　裕
④	篠田　雅哉
⑤	川﨑美知夫

4. **【問4】** 5点×1問=5点　※3つとも正解であること

①	②	③
理解	保持	再構成